

国立台北科技大学との学術交流活動

環境共生学研究科 2年 三小田 憲史

国立台北科技大学は台湾の代表的な科学技術大学で、100年近い歴史をもっています。現在では台湾内外から1万人以上の学生が集まり、幅広い分野で最先端の研究が行われています。熊本県立大学は2005年より、この国立台北科技大学と学術交流協定を結んでいます。この協定に基づき、これまでに熊本県立大学と国立台北科技大学の相互訪問や教員・学生の短期留学などの交流活動を行っています。



篠原教授と国立台北科技大学の張教授

その中でも環境共生学部水環境科学研究室（篠原亮太教授）では毎年9月に台湾を訪れています。台湾ではリサイクル施設や廃棄物処理場など環境関連施設の見学、日台学生による学術セミナーや国際シンポジウムへの参加といった活動を行なっています。本年は9月13日から19日まで、篠原亮太教授と水環境科学研究室内の学生10人が台湾を訪ねました。

日台の学生による国際シンポジウムは14、15日の2日間にわたって行なわれました。今回は環境科学や環境管理に関する21題の口頭発表、15題のポスター発表が行なわれ例年より大規模なものとなりました。発表内容も水処理技術から温暖化防止のための環境政策に至るまで幅広く、専門性や言葉の違いという壁がありましたが環境への理解を深める大変有意義な経験となりました。



ポスターセッション（左）

口頭発表（右）

シンポジウムの後は国立台北科技大学との交流会を行ない、台湾の学生による案内で台北市内を観光しました。これらの活動を通じ、台湾の学生との交流を深めることができました。また国立台北科技大学の学生は英語能力がとても高く、コミュニケーションの手段としての英語の重要性に改めて気付かされました。



国立故宮博物院（左）

台北市内（右）

9月16日には台湾東部の都市花蓮県を訪れ、花蓮県のエコタウン（リサイクル等の優れた環境技術を持つ企業が集まる工業地域）を訪問しました。産業活動に伴う環境への負荷を減らすために、エコタウン内には水処理施設や太陽光発電施設が設置されていました。エコタウンでは花蓮県環境保護局の局長からエコタウンの説明を受け、施設の見学や植樹活動に参加しました。また花蓮では台湾有数の景勝地である太魯閣（タロコ）渓谷を見学しました。太魯閣渓谷では、永い時間をかけて大理石の岩盤が浸食され雄大な地形が形成されていました。



太魯閣国立公園の見学（左）

エコタウンでの記念植樹（右）

現在、環境問題は多様化しており1つの国だけでは越境汚染や気候変動のような全地球的な問題には対処できません。今回の台湾訪問で私達は、様々な環境問題を解決する上で国際協力が如何に重要であるかを学びました。また、国際協力を成し遂げるためには英語によるコミュニケーション能力はもちろん、外国の文化への理解を深める事が不可欠です。私達は今回のように小規模でも外国の学生と共に学ぶ活動が、国際協力のための礎になると確信しています。